

第5版 2023年4月

城東地区5区の 産業構造等の概要



東京都中小企業診断士協会城東支部 地域支援部

前章 城東地区の概要.....	4
第1章 足立区.....	5
1. 足立区の概要.....	5
(1) 足立区の歴史.....	5
(2) 足立区の地理.....	5
(3) 足立区の名所・見どころ	6
2. 足立区の産業の特徴と状況.....	6
(1) 足立区の特徴と状況.....	6
(2) 足立区の産業と課題.....	8
3. 足立区の特徴的な取り組み.....	9
(1) 未来を拓く足立ブランドの認定	9
(2) ビューティフル・ウィンドウズ運動	9
(3) 大学連携事業.....	9
(4) エリアデザイン	10
4. 足立区の施策.....	10
(1) 足立区の基本計画	10
(2) 足立区の産業支援	10
インタビュー：足立区に聞く	12
第2章 江戸川区.....	14
1. 江戸川区の概要	14
(1) 江戸川区の歴史.....	14
(2) 江戸川区の地理.....	14
(3) 江戸川区の名所・見どころ.....	14
(4) その他	15
2. 江戸川区の産業の特徴と状況	16
(1) 江戸川区の特徴と状況.....	16
(2) 江戸川区の産業と課題.....	16
3. 江戸川区の特徴的な取り組み	18
(1) えどがわ伝統工芸産学公プロジェクト	18
(2) 葛西海浜公園のラムサール条約登録	18
4. 江戸川区の施策	18
(1) 江戸川区の基本計画.....	18
(2) 江戸川区の産業支援.....	19
5. 城東支部とのつながり	20
インタビュー：江戸川区に聞く	21
第3章 葛飾区	23

1. 葛飾区の概要.....	23
(1) 葛飾区の歴史.....	23
(2) 葛飾区の地理.....	23
(3) 葛飾区の名所・見どころ	23
2. 葛飾区の産業の特徴と状況.....	24
(1) 葛飾区の特徴と状況.....	24
(2) 葛飾区の産業と課題.....	24
3. 葛飾区の特徴的な取り組み.....	26
(1) 葛飾区地域ブランド認定	26
(2) 柴又地区の重要文化的景観認定	26
(3) かつしか電子まっぷ.....	26
4. 葛飾区の施策.....	26
(1) 葛飾区の基本計画	26
(2) 葛飾区の産業支援	27
5. 城東支部とのつながり	27
インタビュー：葛飾区に聞く	28
第4章 江東区	30
1. 江東区の概要.....	30
(1) 江東区の歴史.....	30
(2) 江東区の地理.....	30
(3) 江東区の名所・見どころ	30
2. 江東区の産業の特徴と状況.....	31
(1) 江東区の特徴と状況.....	31
(2) 江東区の産業と課題.....	31
3. 江東区の特徴的な取り組み.....	32
(1) 江東区ものづくり団地（江東ブランド）の認定.....	32
(2) 江東みつばちプロジェクト®（豊洲商友会協同組合）	33
4. 江東区の施策.....	33
(1) 江東区の基本計画	33
(2) 江東区の産業支援	33
5. 城東支部とのつながり	34
インタビュー：江東区に聞く	35
第5章 墨田区	37
1. 墨田区の概要	37
(1) 墨田区の歴史.....	37
(2) 墨田区の地理.....	37

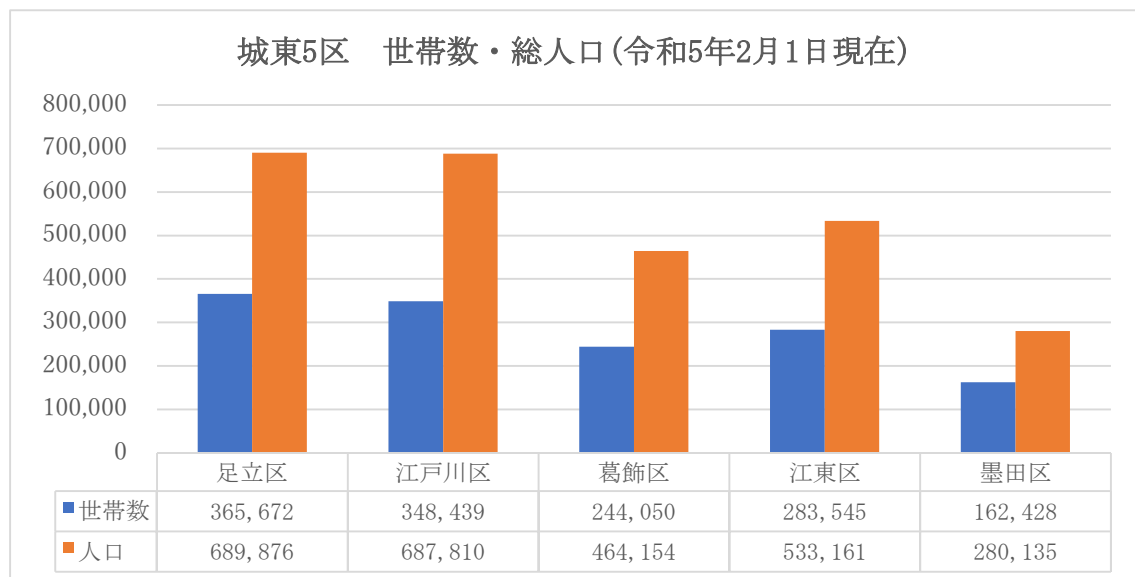
(3) 墨田区の名所・見どころ	37
2. 墨田区の産業の特徴と状況	37
(1) 墨田区の特徴と状況.....	37
(2) 墨田区の産業の課題.....	38
3. 墨田区の特徴的な取り組み	39
(1) すみだモダン（すみだ地域ブランド戦略）の推進	39
(2) スミファ～すみだファクトリーめぐり	40
(3) 活力のある中小企業の事例.....	40
4. 墨田区の施策	40
(1) 墨田区の基本計画	40
(2) 墨田区の産業支援	41
5. 城東支部とのつながり	42
インタビュー：墨田区に聞く	43
おわりに	45

前章 城東地区の概要

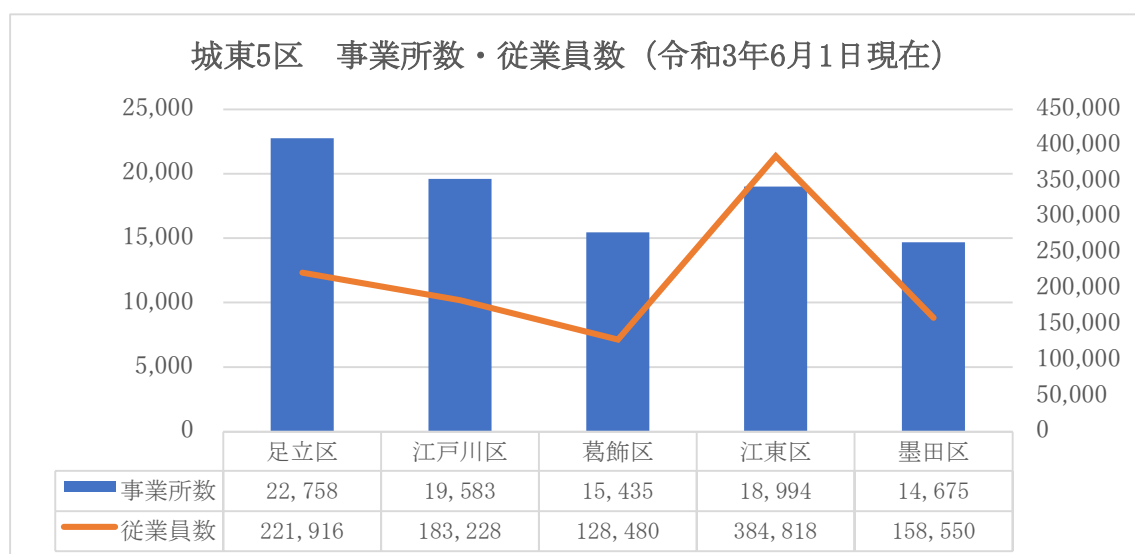
城東地区はかつての江戸城、現在の皇居から東側の地区を指す。東は千葉県、北は埼玉県と接しているこのエリアは、荒川、江戸川、隅田川と複数の一級河川が流れ、近代都市を有しながらも、自然の景観が残る一帯となっている。

東京都中小企業診断士協会 城東支部は、足立区、江戸川区、葛飾区、江東区、墨田区の5つの区を担当する支部である。

前章では、各区の世帯数・総人口および事業所数・従業員数の比較により城東地区の5区の規模感を示す。



(出典：総務省「住民基本台帳」より集計)



(出典：東京都「経済センサス-活動調査報告」より集計)

第1章 足立区

1. 足立区の概要

(1) 足立区の歴史

足立区は、その昔海辺に面した湿地帯の湿原や荒地だったといわれており、「あだち」という名の由来は、足立区の周辺に葦が多く生えていて、「葦立(あしだち)」といわれたのが「足立」になったという説がある。江戸時代の武蔵国足立郡が明治 11 年(1878 年)に南北に分かれ、東京府に属する南足立郡が今の足立区の前身となっている。「足立区」という区名は昭和 7 年(1932 年)から。

世帯数		365,672
人口	男性	345,330
	女性	344,546
	総数	689,876
令和 5 年 2 月 1 日現在		

總持寺(そうじじ)、通称「西新井大師」は空海(弘法大師)に由来する歴史ある寺院で、「関東三大師」の一つに数えられ、毎年初詣の参拝客で賑わう。



西新井大師本堂



境内に咲く梅



千住大橋

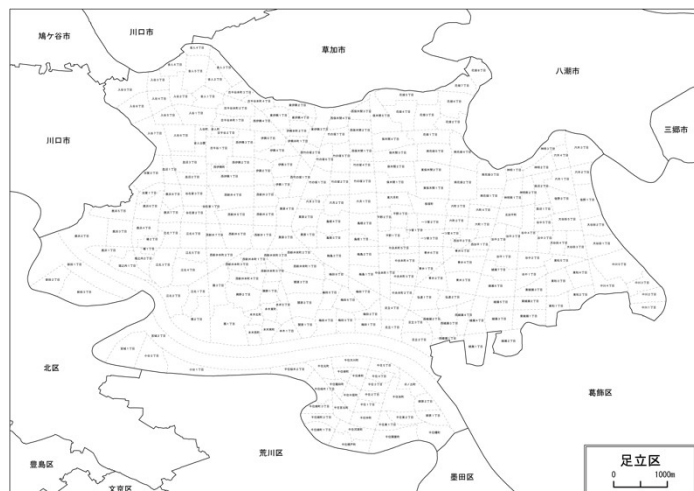
ターミナル駅として栄えている北千住駅周辺は、「千住宿」として江戸時代から物流や商業の拠点を担ってきた。文禄 3 年(1594 年)に当時隅田川に架けられた唯一の橋である千住大橋が完成し、東北へと延びる奥州街道が足立区を通り、その後日光街道ともつながった。

(2) 足立区の地理

東京都区部(東京 23 区)の北東部に位置し、隅田川と荒川に挟まれた地区と、面積の大半を占める荒川以北の地区に分かれている。東は葛飾区、西は北区、荒川区、北は埼玉県川口市、草加市、八潮市、南は葛飾区、墨田区、荒川区に接している。

東西 11.10 キロメートル、南北 8.79 キロメートルと広がり、総面積は 53.25 平方キロメートル。

区部では大田区、世田谷区に次いで第 3 位の広さである。



(3) 足立区の名所・見どころ

足立区は荒川をはじめとした豊かな水辺や、区内に点在する自然環境に恵まれている。

北千住など人気のエリアのほか、厄除けで有名な西新井大師や都内屈指の広さを誇る舎人公園、足立区制 50 周年を記念し建設された花畑記念庭園等の見どころがある。

区内外へ伝えたい魅力的な光景を発信すべく、足立区観光交流協会が「足立区街フォトコンテスト」を主催しており、地域活性化に向けて情報発信を行っている。

主な観光名所	主な年中行事
足立区立郷土博物館	各種イベント有
西新井大師	縁日：毎月 1、8、11、21、28 日
元湊江公園・足立区生物園	各種イベント有
花畑記念庭園・桜花亭	ヨガ教室・庭園ガイドツアー等
舎人公園	千本桜祭り（4 月）
都市農業公園	春の花まつり（4 月） 各種農業体験教室等
しょうぶ沼公園	しょうぶまつり（6 月）
荒川河川敷	足立の花火（7 月） あだち区民まつり（10 月）
ベルモント公園	あだち国際まつり（11 月）
光の祭典	竹ノ塚駅前（12 月～1 月）

<http://adachikanko.net/machiphoto-contest>



2. 足立区の産業の特徴と状況

(1) 足立区の特徴と状況

ア. マクロ状況

令和 3 年経済センサス活動調査（速報集計）によると、足立区の民営事業所数は 2 万 2,758 事業所と区部で 8 位、従業員数は 22 万 1,916 人で区部 12 位と事業所に比べて順位が低い。平成 28 年経済センサス活動調査と比較すると、事業所数は減少、従業員数は増加していることから、1 事業所あたりの従業員数は増加していることがわかる。

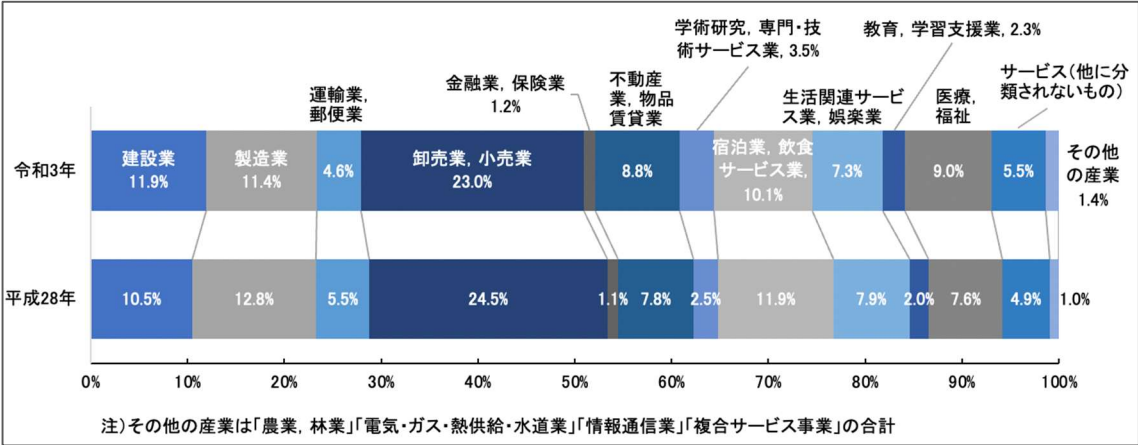
経営組織別に足立区の事業所をみると、「個人経営」は 6,894 事業所（30.3%）、「法人」は 1 万 5,833 事業所（69.6%）となっている。平成 28 年経済センサス活動調査と比較すると、法人の比率が高くなっている。一方で、東京都全体の事業所数の構成比は、「個人」が 22.5%。「法人」が 77.1%となっていることから、足立区は個人経営の事業所が比較的多いことがわかる。

イ. 産業別状況

令和 3 年経済センサス活動調査（速報集計）によると、事業所数の構成比は「卸売業、小売業」が 23.0%と最も高く、次いで「建設業」11.9%、「製造業」11.4%、「宿泊業、飲食サービス業」10.1%と続いており、この 4 産業で構成比の 5 割以上を占める。平成 28 年経済センサス活動調査と比較すると、特に事業所数が増加しているのは「医療、福祉」で 248 事

業所増加（増加率 13.9%）、「建設業」で 247 事業所増加（同 10.0%）、「学術研究、専門・技術サービス業」で 203 事業所増加（同 33.9%）となっている。一方で、減少が大きかったのは、「卸売業、小売業」で 540 事業所減少（同△9.3%）、「宿泊業、飲食サービス業」で 501 事業所減少（同△17.9%）、「製造業」で 427 事業所減少（同△14.1%）となっている。

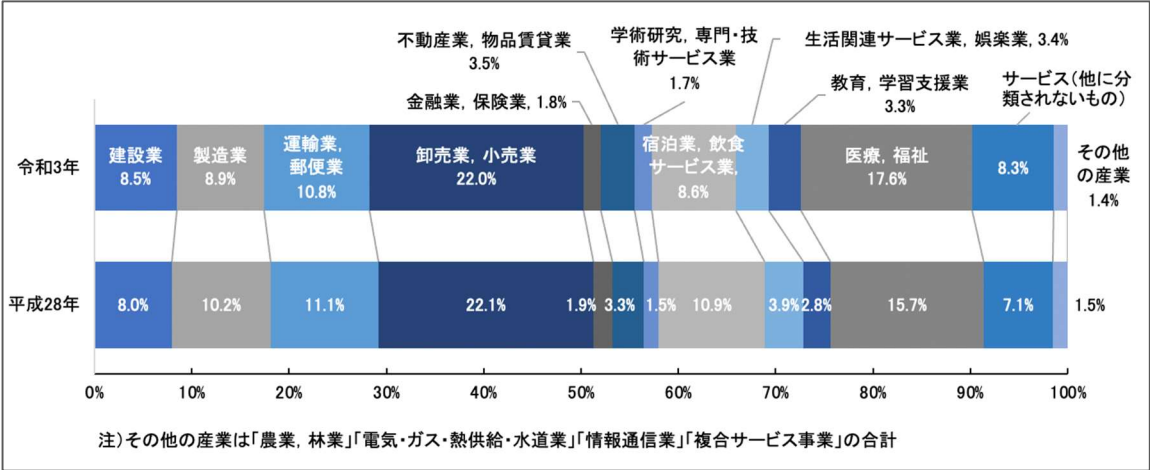
業種別事業所数構成比



(出典：平成 28 年経済センサス活動調査および令和 3 年経済センサス活動調査（速報集計）より集計、筆者作成)

従業者数の構成比をみると、「卸売業、小売業」が 22.0%と最も高く、次いで「医療、福祉」が 17.6%、「運輸業、郵便業」が 10.8%、「製造業」が 8.9%、「宿泊業、飲食サービス業」が 8.6%、となっており、この 5 業種で 7 割近くを占める。

業種別従業者数構成比



(出典：平成 28 年経済センサス活動調査および令和 3 年経済センサス活動調査（速報集計）より集計、筆者作成)

(2) 足立区の産業と課題

ア. 足立区の工業の特徴

①足立区の工業の状況

足立区は金属製品、なめし革・同製品・毛皮、印刷・同関連産業などを中心産業としてきたが、都内の他の代表的な工場集積地区と同様、急減傾向にある。

2020 年工業統計調査（従業員 4 人以上の事業所対象）によると、足立区の事業所数は区部で 2 位、同従業員数は区部 3 位と上位にある。一方、同従業員一人当たりの粗付加価値額は 825 万円と区部で 18 位となっており、労働生産性は低い状況である。多くの小規模事業者は、原材料価格高騰等の外部環境と同時に、経営者の高齢化と後継者不足などの内部環境の影響を大きく受け、今後も厳しい状況であることが想定される。

②足立区の工業の課題

厳しい環境の中で経営力の維持・強化を図っていくために、自社にない技術を保有する企業との連携を通じた技術レベルの強化や販路開拓等の取り組みが求められる。また、経済環境や顧客ニーズ等の変化に合わせた、より高付加価値な製品の開発にも取り組むことで、生産性の向上および収益力の維持・強化を進めていく必要がある。

イ. 足立区の商業の特徴

①足立区の商業の状況

平成 28 年経済センサス活動調査によると、卸売・小売業の商店数は 4,367 事業所、従業者数は 3 万 7,361 人、年間商品販売額は 1 兆 4,263 億 57 百万円となっている。

卸売業は事業所数、従業者数、年間商品販売額とも、上位は「農畜産物・水産物卸売業」、「食料・飲料卸売業」、「建築材料卸売業」「他に分類されない卸売業」が占めている。

小売業の事業所数と従業者数は「その他の飲食料品小売業」が最も多く、年間商品販売額と売場面積は「各種食料品小売業」が最も多い。

②足立区の商業の課題

令和 3 年 7 月に足立区が実施した「消費・就労に関する意識調査」によると、区民の 85.9% がキャッシュレス決済の利用ありと回答しており、区民生活にもキャッシュレス決済が浸透していることがわかる。一方で、令和 3 年 10 月に実施された足立区商店街振興組合連合会加盟店舗の決済方法調査では、スマホ決済、その他のキャッシュレス決済共に 50%以上の店舗が「導入していない」と回答しており、今後事業者側のさらなる対応促進が求められる。消費者のニーズに合った実店舗の魅力や利便性の向上が必要である。

ウ. 足立区の農業の特徴

①足立区の農業の状況

東京都産業労働局農林水産部の「東京都農作物生産状況調査」（令和 2 年産）によると枝豆の収穫量は区部 2 位、小松菜は 3 位である。また、区内では野菜のほかに、夏菊などの切

花を中心に花苗なども栽培されている。小松菜の地域ブランドである「あだち菜」とそれを用いた「あだち菜うどん」など農作物のブランディング活動もおこなわれている。

②足立区の農業の課題

農家数、農業就業人口いずれも減少傾向にあり、農業の担い手不足が進んでいる。担い手不足の解決には、認定農業者や新規就農者の育成・支援について、東京都や JA 東京スマイルなどの関係団体との連携や、区内農業のサポーター的な役割を果たす農業ボランティアの活躍が必要である。

3. 足立区の特徴的な取り組み

(1) 未来を拓く足立ブランドの認定

足立区では平成 19 年度から「足立ブランド」を展開している。区内産業の優れた製品・技術を認定し、その素晴らしさを全国に PR しネットワークを広げていくことで、区内産業のより一層の発展と足立区のイメージアップを図ることを目的としている。認定製品・技術には「認定ロゴマーク」を付与し、販路拡大のための PR 支援などを展開している。令和 4 年末時点で 65 社を認定している。

足立ブランド認定企業が集結するチーム「FC ADACHI」は区内産業主たちの業種を越えた集合体で、地場産業からブランド事業を通じて足立区を盛り上げるチームとして、大学との連携や企業間交流を行い、ものづくりの新たなネットワークを広げている。

<https://www.city.adachi.tokyo.jp/s-shinko/shigoto/shogyo/brand-toha.html>



(2) ビューティフル・ウィンドウズ運動

足立区では警察や区民と連携して犯罪のない美しい住みよいまちをめざす「ビューティフル・ウィンドウズ運動」を展開している。令和 3 年の刑法犯認知件数は 3,212 件で、4 年連続で減少している。令和 3 年度「足立区政に関する世論調査」によると、居住地域の治安が良いと感じている区民は平成 23 年以降、最も高い 62.7% まで増加しており、成果を上げている。

<https://www.city.adachi.tokyo.jp/kikikanri/ku/koho/b-windows.html>



(3) 大学連携事業

現在足立区には、6 つの大学がキャンパスを開設しており。足立区ではこの区内六大学を中心に、様々な大学との連携をおこなっている。「夢をかなえよう。with あだちの 6 大学」と銘打ち、連携講座やイベントの開催といった連携事業を開始し、活力あるまちづくりや区のイメージアップを図っている。

<https://www.city.adachi.tokyo.jp/citypro/ku/koho/daigakurenke.html>



(4) エリアデザイン

足立区ではエリアデザイン計画を策定して、まちづくりを進めている。エリアデザインとは、まちの特徴・魅力や求めるべき将来像などをエリアデザインとして、区内外に広く発信することで、足立区のイメージアップや、地域の活性化を図る新しいまちづくりの取り組みである。「綾瀬・北綾瀬」「六町」「江北」「花畑」「千住」「西新井・梅島」「竹の塚」の7つのエリアにおいて、大規模な区有地等を活用し、民間活力によるまちの整備を積極的に進めている。



東京女子医科大学附属
足立医療センター



鉄道高架化が完了した竹ノ塚駅周辺

<直近の取り組み例>

- 花畑エリア：文教大学東京あだちキャンパス開設と、周辺の環境整備を実施中
- 江北エリア：東京女子医科大学附属足立医療センター開設と周辺の環境整備を実施中
- 竹の塚エリア：鉄道高架化の工事による回遊性の高いまちづくりが進行中

https://www.city.adachi.tokyo.jp/sesaku/20141106senryaku_keikaku.html



4. 足立区の施策

(1) 足立区の基本計画

ア. 足立区基本構想

「協創力でつくる 活力にあふれ 進化し続ける ひと・まち足立」を区が目指す姿・将来像として掲げて平成28年10月に策定され、平成29年4月から施行されている。

イ. 基本計画（令和3年3月改定）

基本計画は、「足立区基本構想」で示した将来像の実現に向けて、区政全体の目標や基本的な考え方を整理し、具体的な施策を体系的にまとめたものであり、区のすべての取り組みは、基本計画に基づいて実施されている。平成29年2月に現在の基本計画（計画期間：平成29年度から令和6年度）を策定したが、社会情勢の変化等により、取り組むべき新たな課題や、取り入れるべき新たな考え方が生じたため、令和3年3月に改定された。

(2) 足立区の産業支援

各種相談窓口や、助成金、補助金などさまざまな支援が用意されている。

ア. 相談・マッチング支援

<https://www.city.adachi.tokyo.jp/shigoto/chushokigyo/keieikoza/index.html>



- ① トータルマッチング事業：企業を訪問し、中小企業支援制度をニーズに合わせて紹介
- ② 中小企業経営者のための相談窓口：専門的知識と経験を持つ各種相談員が無料で対応
- ③ オンライン中小企業相談：Web 会議サービスを利用したオンライン相談
- ④ 事業者何でも相談：事業所を訪問して様々な困りごとや悩みの解決をサポート

- ⑤ 中小企業らくらくメール相談：Eメールにて経営相談・質問に回答
- ⑥ 女性起業、経営相談窓口：女性中小企業診断士による起業や経営に関する相談
- ⑦ 経営力向上計画作成支援：中小企業診断士が経営力向上計画の作成を無料で支援
- ⑧ IT・IoT相談：IT・IoT導入に関わる無料相談
- ⑨ ウェブ活用アドバイザー：事業所を訪問してウェブ活用の無料相談に対応
- ⑩ 知財総合支援窓口：区との協定により一般社団法人発明推進協会が月に1度、知的財産権に関わる無料相談の窓口を開設

イ. 創業支援

<https://www.city.adachi.tokyo.jp/shigoto/chushokigyo/sogyo/index.html>



- ① 特定創業支援等事業：区または創業支援事業者が、創業希望者を対象に継続的に行う支援。特定創業支援等事業による支援を受けた方には、優遇措置が適用される。
- ② 経営力アップ支援事業：足立区と足立成和信用金庫による創業支援で、創業経営相談員による定期的な経営相談や中小企業支援メニューの優先的な利用が受けられる。
- ③ 創業プランコンテスト：起業家の優れたビジネスプランに最大で200万円補助する。

ウ. 助成金、補助金

<https://www.city.adachi.tokyo.jp/shigoto/chushokigyo/jose/index.html>



- ① 新製品・新事業開発補助金：新製品・新技術・新サービスの開発経費を補助
- ② 技術支援補助金：大学や産技研からの技術支援を受けた際の費用の助成
- ③ 小規模事業者経営改善補助金：機械設備等購入費補助、店舗改修費補助等
- ④ 専門家派遣助成金：専門家の派遣を受けた場合の経費を助成
- ⑤ ISO認証取得助成金：ISO認証取得に要した経費を助成
- ⑥ 知的財産権認証取得助成金：知的財産権の認証登録取得に要した経費を助成
- ⑦ 見本市等助成事業補助金：国内外・オンラインの見本市に出展する費用を助成
- ⑧ 足立区ものづくり企業地域共生推進助成金：ものづくり企業の地域共生を支援
- ⑨ IT・IoT導入補助金：IT・IoTの導入に係る費用を補助
- ⑩ ホームページ作成・更新補助金：ホームページの新規作成や全面改修する費用を助成
- ⑪ 産業技術・経営研修会助成金：企業や産業団体の研修費用を助成
- ⑫ 就業規則作成助成金：就業規則作成・変更に係る社会保険労務士への委託費用を助成
- ⑬ 雇用調整助成金活用促進事業（助成金）：雇用調整助成金・緊急雇用安定助成金の申請に係る社会保険労務士の代行費用を助成
- ⑭ 休業支援金活用促進事業（助成金）：休業支援金・給付金の申請に係る社会保険労務士の代行費用を助成
- ⑮ 足立区運輸事業者エネルギー価格高騰対策支援金：エネルギー価格高騰の影響を受け、価格転嫁が困難な区内の中小運輸事業者に対し、経費負担削減策として支援金を交付

足立区に聞く

産業経済部企業経営支援課長 鈴木 孝昌



■ アフターコロナの中小企業支援施策

足立区では事業者のチャレンジを後押しして経営力の向上を図るべく、国内外における販路拡大支援事業に力を入れています。国内においては、テスト販売や商談機会の提供等をおこなっています。海外の販路開拓としては、海外提携先がある委託事業者と連携して香港やシンガポールでの展示会出展等を支援しています。海外展開の対象事業者自体は少ないものの、前向きに取り組んでいる企業を後押しして成功事例を作りながら、さらに多くの区内企業が海外展開にも挑戦できる環境づくりをしていきたいと考えています。

さらに、コロナ禍でも行っていた緊急経営資金融資の斡旋や小規模事業者経営改善補助金、IT・IoT 導入補助金などは、今後も資材・燃料費高騰等の影響を受けている事業者の支援として、内容を拡充しながら継続していきます。また、区内経済活性化を目的に、区民および区内の小規模事業者向けにキャッシュレス決済還元事業をおこなっており、令和5年度も実施予定です。

今後に向けては、人材確保も課題として捉えています。特に、建設業や運輸業では企業側の求人と働きたい人のギャップが大きいため、人手不足が深刻です。今後、区内企業の魅力を知ってもらう活動・支援等を拡充実施していきたいです。具体的な取り組みとしては、今年度から会社の魅力発信の動画作成支援を委託事業でおこなっています。また、高校生が区内企業の魅力に触れる機会として職業人講話を実施してきましたが、その拡充施策として就職を希望する高校生を対象にした区内企業バスツアーも実施する予定です。

■ SDGs の取り組み

足立区は SDGs 未来都市にも選定され、様々な活動がこれから本格化していきます。綾瀬駅周辺を中心に、住民の第三の居場所や活動場所、ロールモデルと出会える機会を生み出していきます。産業関連の取り組み例としては、食品ロスを削減するべく、パン屋や飲食店と協業し、AI 需要予測による食品ロス削減の実証実験、効果検証をしていく予定です。企業経営支援課でも事業者との連携部分でお手伝いをしていて、今後成功事例を展開していきたいと考えています。

(令和5年3月取材)

足立区の 有名人



【スポーツ】

- アドゥ ブライト 健太（プロ野球選手）
- 工藤壮人（プロサッカー選手）
- 武居由樹（プロボクサー）
- 内藤哲也（プロレスラー）
- 森且行（オートレース選手）

【芸能】

- 北野武（芸人・映画監督）
- 木村カエラ（歌手・モデル）
- 波瑠（俳優）
- 雛形あきこ（タレント）
- 布施博（俳優）

【文化】

- 羽海野チカ（漫画家）
- 岡部好（写真家）
- 鴨下一郎（政治家）
- 立原勇（作曲家）
- 永沢まこと（イラストレーター）

第2章 江戸川区

1. 江戸川区の概要

(1) 江戸川区の歴史

昭和7年(1932)の市郡合併により、それまでの南葛飾郡は廃止され、小松川町、葛西村、篠崎村、松江町、瑞江村、小岩町、鹿本村の7町村が併合されて東京市江戸川区が誕生した。区名は、区を南北に流れる江戸川に由来する。ちなみに、江戸川の名前は「江戸へ通じる川」という意味で名付けられた。

世帯数		348,439
人口	男性	346,168
	女性	341,642
	総数	687,810
令和5年2月1日現在		

(2) 江戸川区の地理

江戸川区は東京都の最東端に位置し、南北に長い形をしている。西に旧中川・荒川、東に江戸川、中央に旧江戸川が通る水辺のエリアである。東西約8キロメートル、南北約13キロメートルで、面積は49.09平方キロメートルあり、23区中4番目の広さである。区内には多くの公園が存在し、7.80平方キロメートルを誇る公園総面積は23区で1位となっている(後述(4)ウを参照)。



(出典：江戸川区 HP より)

(3) 江戸川区の名所・見どころ

江戸川区は「日本の渚百景」にも選ばれた「葛西臨海公園」に接する広大な「葛西臨海公園」がある。同公園には、国内で2番目に大きな観覧車や、日本有数の水族館である「葛西臨海水族園」がある。「葛西臨海公園」は、東京都で初めてのラムサール条約湿地に登録された。

また、江戸川区には、都内に住むインド人の約4割が住んでおり、特に西葛西は日本屈指インド人街「リトルインディア」と呼ばれ、約5,100人強が在住している。平成31年に全国で初めて選出されたインド出身区議会議員も西葛西在住である。

主な観光名所	主な年中行事など
葛西臨海公園内	野鳥観察、お魚観察、カヌー体験、海水浴等(随時)
小岩駅 周辺	小岩阿波おどり(7月第1週)
行船公園	金魚まつり(7月中旬)
船堀タワー	展望塔で眺める初日の出(元日)
江戸川河川敷	江戸川区花火大会(8月上旬)
篠崎公園	江戸川区民まつり(10月中旬)



▲葛西臨海公園の観覧車と水族園

このほか、昔ながらの独特な雰囲気と多くの飲食の名店で人気を集める小岩エリアなど、江戸川区は、自然と多様な文化の魅力にあふれている。その魅力を広く伝えるため、江戸川

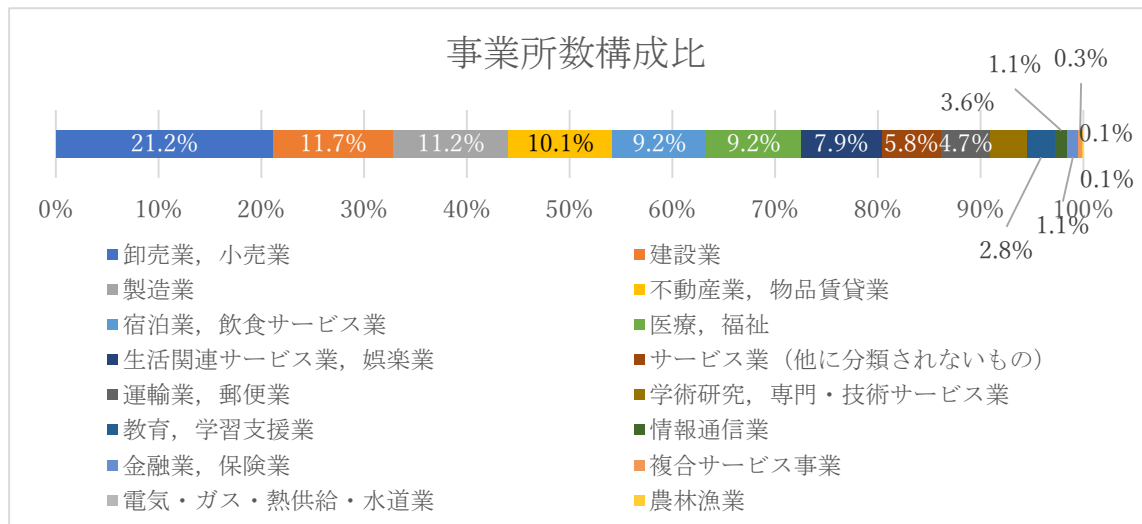
ウ. 公園

東京都建設局の「東京都都市公園等区市町村別面積・人口割比率表（令和４年）」によると、江戸川区の公園総面積は 7,826,550 m²と東京都内（23 区および市町村含める）で 1 番広く、1 人当たりの公園面積も皇居外苑のある千代田区を除くと 23 区の中で最も高い区となっている。

2. 江戸川区の産業の特徴と状況

(1) 江戸川区の特徴と状況

令和３年経済センサス活動調査(速報集計)によると、総事業所数は 23 区中 11 位の 19,583 件で、従業員数は 183,228 人となっており、23 区内で比較すると運輸業、建設業、製造業の比率が高いという特徴がある。



（出典：東京都「経済センサス-活動調査報告」より集計）

建設業の事業所数は 2,287 で、足立区、練馬区に次ぎ 23 区中第位である。運輸業の事業所数は 929 を数え、大田区、江東区、足立区、港区に次いで 23 区 5 位で、東京都の陸送を支えている。

(2) 江戸川区の産業と課題

ア. 江戸川区の工業の特長

①江戸川区内の工業の状況

江戸川区は、東京都城東地域に位置する工業集積地域である。製造業の内訳は金属製品、

一般機械器具、衣服・その他の繊維製品が主な業種となっている。しかし、その大半が従業員 4 人以下の小規模工場であり、居住地と職場が近い「職住近接」の事業所が数多く存在する。

運輸分野では、高速道路を利用すると湾岸地域や空港にもアクセスが良いため、東京有数の物流ハブ拠点である「葛西トラックターミナル」がある。農業分野では、花き・野菜等の農業産出額 13 億 9100 万円（令和 2 年）は 23 区で 1 位である。代表的な特産物として、江戸川区小松川の地名に由来する小松菜や、鹿骨地区の花き（ポインセチア、シクラメン、朝顔、菊、バラ等）がある。

②江戸川区の工業の課題

河川沿岸や平井地区、船堀～新小岩間の区域が準工業地域に指定され、金属製品製造業、生産用機械器具製造業、繊維工業、印刷・同関連業等が区内産業の基盤を担ってきた。しかし、国際化や高度情報化、高齢化や事業継承の問題、環境への配慮などで、他地域と同様に製造業は減少傾向であり、鉄道駅近辺を中心とした利便性の高い土地は、工場からマンション・建売住宅などへの宅地化が進んでいる。

そうした状況下、江戸川区はものづくり産業の発展を支援するため、斡旋融資制度をはじめとするさまざまな助成制度を実施している。

イ．江戸川区の商業の特徴

①江戸川区の商業の状況

平成 26 年(2014)の商業統計調査によると、江戸川区における商業（卸売業・小売業）の事業所数は 3,634 店、従業員数は 29,268 人となっている。

江戸川区内における商業の分布をみると、小岩、葛西・西葛西エリアに事業所・従業員数ともに多く分布している。

小岩エリア（南小岩、北小岩、西小岩、東小岩）の商業事業所数は 716 で 19.7%、従業員数は 4,226 人で 14.4%が分布している。

葛西・西葛西エリア（西葛西、東葛西、中葛西、南葛西、北葛西、清新町）の商業事業所数は 709 で 19.5%、従業員数は 7,984 人で 27.3%が分布している。

②江戸川区の商業の課題

江戸川区の商業事業所数は平成 19 年(2007)と比較して▲26.9%、年間販売額は▲24.1%と、減少している。江戸川区を通る鉄道は、新宿や秋葉原、錦糸町など、大型商業施設が多くある都市へのアクセスが良いため、買回り品を中心に買い物客が都心部へ流れやすい傾向がある。また、鉄道駅から徒歩圏外の地域では、その地域の生活を支えるスーパーや商店街が存在している。地域のためにも、それらの事業所の継続支援が求められている。



▲昭和通り商店街（出典：江戸川画像文庫）©江戸川区

3. 江戸川区の特徴的な取り組み

(1) えどがわ伝統工芸産学公プロジェクト

「工芸者と美大生が江戸川からこれからの伝統をデザインする」をコンセプトに、江戸川区の伝統工芸者と美術大学（多摩美術大学、女子美術大学、東京造形大学）が連携し、新しい伝統工芸製品を創る事業。平成 15 年度(2003)に江戸風鈴、つりしのかね等の伝統工芸者 10 人、学生約 150 人でスタート。これまで工芸者延べ 187 人、学生延べ 2,116 人が参加し、商品約 920 点を開発。平成 20 年（2008）にはグッドデザイン賞を受賞した。

えどがわ伝統工芸産学公プロジェクトで生み出された商品は、江戸川区の名産品を販売するネットショップ『えどコレ!』（楽天市場）で販売している。

<https://www.city.edogawa.tokyo.jp/shigotosangyo/project/index.html>

えどがわ伝統工芸中



（出典：江戸川区HPより）



(2) 葛西海浜公園のラムサール条約登録

平成 30 年（2018）10 月、葛西海浜公園が、国際的に重要な湿地を保全する「ラムサール条約湿地」に都内で初めて登録された。葛西海浜公園には、多くの渡り鳥が飛来するとともに、準絶滅危惧種のトビハゼを含む多種多様な生物が生息している。

貴重で自然豊かな環境の保全と活用に関心が多く向けられ、近隣施設への集客増や、区のイメージアップに繋がっている。



（出典：江戸川区HPより）

4. 江戸川区の施策

(1) 江戸川区の基本計画

江戸川区では、2100 年の江戸川区（共生社会ビジョン）、2030 年の江戸川区（SDGs ビジョン）の 2 つの長期計画と中期計画が策定されている。今から 2100 年にかけて江戸川区の人口、区のお金、職員数は大きく減りおよそ 2/3 程度になると予想されている。ともに生きるまちを目指して、ともに力をあわせて 2100 年を迎えられるような計画が制定されている。

(2) 江戸川区の産業支援

ア. 産業ときめきフェア in EDOGAWA

製造業を中心とした企業が一堂に会し、展示・実演などを通じて優れた製品・技術力を紹介する展示講演会。ビジネス情報の交流を促進し、企業の活性化を図ることを目的として開催されるものである。第 24 回目となる令和 4 年（2022）は 11 月 18 日（金曜日）から 11 月 19 日（土曜日）までタワーホール船堀で 3 年ぶりにリアルで開催された。<https://sangyoutokimeki.jp/>



イ. えどがわ起業家ゼミナール

起業に必要な知識やスキル学習のためのセミナーを、基礎編、ステップアップ編と 2 段階で展開している。知識取得から事業プランの作成、発表会までをおこなう。

本講座の受講生で一定の条件を満たすと「産業競争力強化法に基づく特定創業支援等事業の認定による支援」を受けることが可能となり、登記にかかる登録免許税の軽減や、融資保証枠等の拡大が活用できる。

https://www.city.edogawa.tokyo.jp/e032/shigotosangyo/jigyosha_oen/sangyo_jigyosya/sougyo_shien/kigyoka_seminar/index.html



ウ. えどがわ起業ビジネスコンテスト

江戸川区内で新たに起業を考えている人を対象に実施するビジネスプランコンテスト。書類審査とプレゼンテーション審査を行い、入賞者を決定する。入賞者が江戸川区内で実際に起業した場合、起業にかかる経費の一部を区が助成する。

第 19 回となる令和 5 年は、2 月 20 日（月曜日）に応募受付が締め切られ、3 月 18 日（土曜日）に最終審査が行われた。

https://www.city.edogawa.tokyo.jp/e032/shigotosangyo/jigyosha_oen/sangyo_jigyosya/sougyo_shien/contest/19businessplan.html



エ. 江戸川区中小企業 DX インフォメーション

区内の中小企業の経営者が DX 推進に取り組む際に円滑に実施が進められることを目的に、DX 推進に役立つスキルなどの知識・ノウハウや、セミナーの案内、事例を紹介している。DX の悩み・課題については相談窓口から問い合わせが可能となっている。

<https://dx-city-edogawa.jp/>



オ. えどがわ産業ナビ

区内の会社・店舗などの情報を紹介する、登録および利用が無料のインターネットサイト。区内事業者の事業内容や各種情報（空き店舗、貸し工場、求人情報）、ニュース（製品情報、キャンペーン、ビジネスマッチング）、セールスポイントなどを発信し、新規顧客や取引先の開拓に利用できる。また区内の補助金、助成金、セミナーといった産業支援情報の検索をするにも便利なサイトである。

<https://edogawanavi.jp/>



カ. 主な助成金事業

新製品・新技術開発支援、公設試験研究機関等利用、ものづくり人材育成支援、人材確保定着推進、販路拡大支援、ISO 認証取得、エコアクション 21 認証取得、プライバシーマーク認定取得、知的財産権の出願、事業継続計画（BCP）の策定、江戸川区光熱費高騰対策、江戸川区ものづくり企業地域共生推進、創業促進などがある。（内容は令和 4 年度のもの、今年度変更の場合あり）

https://www.city.edogawa.tokyo.jp/e032/shigotosangyo/jigyosha_oen/sangyo_jigyo_sya/jyosei/index.html



5. 城東支部とのつながり

城東支部としての江戸川区との主な取り組みとしては、産業ときめきフェア in EDOGAWA への出展（11 月～12 月）、江戸川区地域クラウド交流会への参加（年 2 回）、江戸川区商店街プロデュース事業などがある。



江戸川区に聞く

江戸川区 産業経済部 副参事 木村 浩之



■アフターコロナの中小企業支援施策

江戸川区では令和4年度から融資の借り換え事業に取り組んでいます。当初は今年度のみの予定でしたが令和5年度も継続することにしました。コロナ時に行った緊急融資の返済が始まる時期に、ウクライナ危機による物価高騰、光熱費の高騰などがあり、手元資金の不安が生じました。そこで期限を延長して、リスケジュールをする前に借り換えを斡旋する事業を行います。

■SDGsの取り組み

江戸川区では2100年に向けた共生社会ビジョン、2030年を目途にしたSDGsビジョンという長・中期計画を推進しています。共生社会ビジョンとは、2100年の世の中を見据えて、今の子供達が将来も住みよく暮らせるように今の我々ができることを考える取り組みです。2030年のSDGsビジョンは、今の商店街や、銭湯、金魚、伝統工芸といったものが相変わらず元気であるとともにDXが進んでイノベーションを生み出すといったことを実現させるための取り組みです。

SDGsの17の取り組みのうち、8番の「働きがいも、経済成長も」については江戸川区で行っている中小企業の支援活動が当てはまります。令和5年度の新規事業の1つ目は、「江戸川区名産品プロモーション事業」です。これは2010年から行ってきた「名産品販売促進事業」をリニューアルするものです。これまでは、江戸川区の伝統工芸品の販売支援を中心とした事業でしたが「江戸川区名産品プロモーション事業」では、対象を区内のB to C向け製造業に拡大し、区が運営するブランディングサイトで製品を紹介する事業に転換します。また、自社ECサイトの構築を支援して、製品の価値をよりアピールできるようにします。

2つ目は、「アントレプレナー交流事業」です。創業3年後に生き残っている個人事業主は4割程度と言われています。そのため創業後3年間くらいは手厚い伴走支援が必要だと感じています。そこで支援の一環として起業家同士の交流の場を提供するのが「アントレプレナー交流事業」です。リアル交流会の開催や、オンラインツールを活用して日常的に起業家同士が交流できるようなプラットフォームを提供します。

(令和5年2月取材)

江戸川区の 有名人



【スポーツ】

- 伊東昭光(元プロ野球選手)
- 池江璃花子(女子競泳選手)
- 大山加奈(元バレーボール選手)
- 小谷野栄一(元プロ野球選手)
- 森嶋猛(元プロレスラー)

【芸能】

- 大竹しのぶ(女優)
- 亀梨和也(歌手・タレント)
- 後藤真希(歌手・タレント)
- 松崎しげる(歌手)
- 渡辺隆(お笑い芸人)

【文化】

- 石田衣良(小説家)
- 植草一秀(経済学者)
- 大塚範一(フリーアナウンサー)
- 西村賢太(小説家)
- 松丸友紀(アナウンサー)

第3章 葛飾区

1. 葛飾区の概要

(1) 葛飾区の歴史

昭和7年（1932年）の市郡合併によってそれまでの南葛飾郡は廃止され、金町、水元、本田、奥戸、南綾瀬、亀青、新宿の7カ町村を併合し東京市葛飾区が誕生した。「かつしか」の「かつ」は丘陵や崖など、「しか」は低地の意味をもち、地域的な景観から名付けられたと考えられている。

世帯数		244, 050
人 口	男性	231, 318
	女性	232, 836
	総数	464, 154
令和5年2月1日現在		

(2) 葛飾区の地理

葛飾区は東京都の東北端に位置し、形は尾ひれを上に向けた金魚に似ている。

西に荒川、東に江戸川、中央に中川が通る水辺のエリアである。東西約5キロメートル、南北約8キロメートルで、面積は34.80平方キロメートルあり、23区中7番目の広さである。



(3) 葛飾区の名所・見どころ

日本映画史に残る名作「男はつらいよ」の舞台として知られる下町情緒あふれる柴又をはじめ、季節の花木が楽しめる公園、庭園が点在する。「こち亀」の亀有、「キャプテン翼」の四つ木など漫画・アニメのゆかりの地としても有名。街のいたる所に銅像が設置され、銅像を探しながらの観光も人気である。

主な観光名所	主な年中行事など
柴又帝釈天 (経栄山題経寺)	納涼花火大会 (10月) 寅さんサミット (11月)
堀切菖蒲園	葛飾菖蒲まつり (6月)
都立水元公園	葛飾菖蒲まつり (6月)
亀有	香取神社例大祭 (9月)
立石	立石フェスタ (9月)

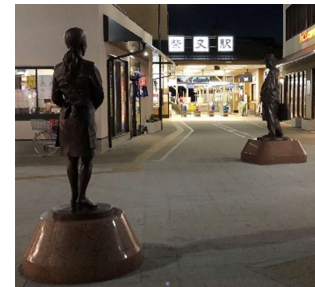
“大人の遊園地”や“昼酒の聖地”等の異名をもち下町風情あふれる立石など、魅力あふれる葛飾区である。



亀有駅前のこち亀キャラクター



キャプテン翼の名シーンを再現して撮影可能



柴又駅前の寅さんとさくら像

2. 葛飾区の産業の特徴と状況

(1) 葛飾区の特徴と状況

総事業所数は、15,435 で 23 区中 17 位であるが、製造業の事業所数は 2,310 で、大田区、足立区、墨田区に次ぎ 23 区中第 4 位（令和 3 年経済センサス活動調査（速報集計））である。ただし大工場は少なく、中小零細工場が多い特徴がある。全体の事業所数は減少傾向にあり、製造業の事業所数も減少傾向にある。

また、葛飾区では葛飾区伝統工芸士、ならびに伝統工芸品を認定し、江戸切子に代表される葛飾区伝統工芸品として 46 品目を指定している。さらに伝統産業販路拡大支援事業による製品の販路拡大（葛飾区伝統産業館、ネット販売等）など、その振興に力を入れている。

(2) 葛飾区の産業と課題

ア. 葛飾区の工業の特徴

① 葛飾区の工業の状況

葛飾区は、東京都城東地域の一面に位置する東京都における代表的な工業集積地域である。玩具、工業用ゴム、シャープペン・ボールペン、ボルト・ナット、装身具などは、全国的においても葛飾区が主要な生産地となっている。しかし、その大半が従業員 6 人以下、6 割が従業員 3 人以下の小規模工場で、1 工場当たりの出荷額も 23 区中下位に位置している。

葛飾区の工場の大きな特徴は、経営者の約 7 割、従業員の約半数が区内に居住している「職住近接型」という点が挙げられる。

（葛飾区ホームページ：葛飾区製造業の概況・葛飾区工業の歴史より）

② 葛飾区の工業の課題

工業統計（従業者 4 人以上の製造業の事業所を対象にした統計）によれば、事業所数、従業員数は年々減少している。この減少理由は、都市部製造業の減少理由と同様に、東アジアへの海外シフト、マンション等住居建設に伴う騒音その他操業環境悪化、後継者難による廃業などが挙げられる。

工業統計表	事業所数 （従業者 4 人以上）	事業所数 推移（%） 平成 19 年 100	従業員数 （人）	従業員数 推移（%） 平成 19 年 100	製造品出荷 額 （億円）	製造品出荷 額推移（%） 平成 19 年 100
平成 19 年	1,186	100	13,860	100	2,315	100
平成 24 年	908	76.5	10,668	77.0	1,811	78.2
平成 29 年	692	58.3	9,055	65.3	1,685	72.8
令和元年	618	52.1	8,351	60.3	1,708	73.8

出典：各年工業統計表より筆者編集

イ. 葛飾区の商業の特徴

①葛飾区の商業の状況

葛飾区における商業（卸売業・小売業）の事業所数は 3,296、従業員数は 28,035 人で全産業における割合は、事業所数 21.0%、従業員数 20.0%と全産業中最も大きな割合を占めている（令和 3 年経済センサス活動調査（速報集計））。従業員数の規模で見た事業所数では、4 人までが 2,324 事業所で全体の 61.4%、次いで 9 人までが 735 事業所と事業所全体の 19.4%と、1～9 人までの規模の事業所数が全体の 8 割を超える。小規模事業所の割合が高い。

（第 66 回葛飾区統計書）

②葛飾区内における商業事業所分布

葛飾区内における商業の分布を地区別にみると、亀有、立石、青戸の順に多い。3 エリア合計で、事業所数の約 25%を占める。商業集積地区では、亀有地区が約 14%の事業所が集積している（第 66 回葛飾区統計書）。特に平成 18 年 3 月にオープンした都内有数規模のショッピングセンターアリオ亀有（亀有 3 丁目）内には約 130 の専門店がある。

③葛飾区の商業の課題

平成 28 年の商業の年間商品販売額は 7,331.2 億円。平成 9 年の 8,768.2 億円に比べると 83.6%の水準に減少し、事業者数も同様に減少している。近年の減少傾向に歯止めはかかっているが、アリオ亀有に代表される大規模商業施設の開業などを考慮すると、小規模店舗はその減少幅が大きいと推察される。

商業統計 調査	事業所数	事業所数 推移 (%) 平成 19 年 100	従業員数 (人)	従業員数 推移 (%) 平成 19 年 100	年間商品販 売額 (億円)	年間商品販 売額推移 (%) 平成 19 年 100
平成 19 年	4,437	100	28,697	100	7,403.3	100
平成 24 年	3,192	71.9	21,066	73.4	6,308.6	85.2
平成 26 年	3,153	71.1	21,394	74.6	6,051.2	81.7
平成 28 年	3,075	69.3	22,749	79.3	7,331.2	99.0

出典：各年商業統計調査（平成 24 年・28 年は経済センサス活動調査結果）より筆者編集

ウ. 葛飾区の農業の特徴

①葛飾区の農業の状況

葛飾区は、23 区の中で農業が存続している数少ない地区であり、農業者世帯数は 163 世帯、約 34 ヘクタールの農地を有している。「とれたて・イキイキ葛飾元気野菜」のブランドとして、主に小松菜・枝豆・ねぎ・キャベツ・ブロッコリーなどが栽培されている。JA 東京スマイル 葛飾元気野菜直売所（柴又）はじめ、区内の葛飾元気野菜「取扱店」「使用店」で購入が可能である。（葛飾区ホームページ：葛飾の農業より）

②葛飾区の農業の課題

農業世帯数・農地面積いずれも減少傾向であり、認定農業者の支援や農業応援サポーターの養成による担い手の育成、販路の拡大や高付加価値化などが課題となっている。

3. 葛飾区の特徴的な取組み

(1) 葛飾区地域ブランド認定

区内の製造業者が高い技術を駆使して製造した製品・部品等を、地域ブランド「葛飾町工場物語」として平成 19 年から認定・PR している。

<https://katsushika-brand.jp/>



KATSUSHIKA



町工場物語®

(2) 柴又地区の重要文化的景観認定

平成 30 年 2 月に国の重要文化的景観として、柴又地区が認定された。増加する外国人をはじめ、観光客へ下町柴又の魅力をアップするニュースとして、注目されている。「寅さんサミット」はじめ、多くの柴又地区ならではのイベントを開催し、近隣商店への集客増へ繋げている。

<https://torasan-summit.jp>



(3) かつしか電子まっぷ

令和 3 年 9 月にリニューアルされた「かつしか電子まっぷ」は、葛飾区の施設、防災、都市計画等の各種地図情報を整理・統合したサービスである。葛飾区の情報について、目的を絞り地図上に落とし込んで検索・閲覧可能である。

<https://www.sonicweb-asp.jp/katsushika>



4. 葛飾区の施策

(1) 葛飾区の基本計画

・葛飾区基本計画（令和 3 年～令和 12 年）

葛飾区では令和 7 年以降、人口減少が継続することが見込まれている。区では「葛飾区基本計画」を策定し、「夢と誇りあるふるさと葛飾の実現」「区民との協働による、いつまでも幸せに暮らせるまちづくり」を基本方針として、14 の葛飾・夢と誇りのプロジェクト、SDGs が目指す経済・社会・環境の全ての面における発展に向け、成長と成熟が調和した持続可能なまちづくりを進めている。

https://www.city.katsushika.lg.jp/_res/projects/default_project/_page/001/026/967/honpenzentai.pdf



(2) 葛飾区の産業支援

ア. 葛飾区地域産業活性化プラン（平成 17 年）

区がこの方向性に沿って、毎年度産業振興策を推進している。

<http://www.city.katsushika.lg.jp/information/1000085/1006292/1006339.html>



イ. 主要なイベント、認定事業等

葛飾区産業フェア 10 月・町工場見本市 2 月・葛飾町工場物語（応募 4～6 月）

区内製造業が高い技術を駆使し製造した製品や部品等を、葛飾ブランド「葛飾町工場（まちこうば）物語」として認定し、ストーリー性豊かに全国へ発信している。

また令和 6 年には、亀有駅近くに「こち亀」をテーマにした観光施設のオープンも計画されている。

ウ. 主な補助金事業

葛飾区内の中小企業向けの補助金制度として、製品性能試験費用補助事業、ホームページ作成費補助、見本市出展費補助事業、知的所有権取得費補助事業、新製品・新技術開発補助事業、動力プレス機械自主検査補助金、産業人材育成支援補助事業がある。製造業を重点にした施策が多い。

<https://www.city.katsushika.lg.jp/business/1000011/1030233/1031300/index.html>



エ. 東京理科大学との産学公連携推進事業

東京理科大学が、平成 25 年 4 月に葛飾区金町に「葛飾キャンパス」を新たに開設し、葛飾区は、東京理科大学と葛飾区内事業者の連携推進に向けての事業を開始している。

具体的には、区内事業者と大学研究室の相互理解や交流促進、共同開発や技術協力などを目的として、共同研究事例の創出や、共同研究事例テーマ創出セミナー「テクノロジーカフェ」の開催など、さまざまな産学公連携推進事業を実施している。

5. 城東支部とのつながり

城東支部としての、葛飾区との主な取り組みとしては、葛飾区立中央図書館・立石図書館ビジネス相談会並びにビジネスセミナー、葛飾区創業塾並びにかつしか経営塾の開催等がある。



葛飾区に聞く

葛飾区産業経済課長 長南 幸紀



■アフターコロナの中小企業支援施策

新型コロナウイルス対策関連の特別融資は、昨年9月末で終了しましたが、その後も、物価高騰や円安など様々な影響を受けている事業者を引き続き支援するために、新型コロナウイルス対策特別融資より、限度額を500万円増やした「物価・原油価格高騰等対策緊急（借換）融資」を行ってきました。この緊急融資は今年3月末までとしていましたが、引き続き物価高騰や原材料が値上がりしているという現況を受けて半年間延長し、信用保証料と利子補給を区が全額負担する対応を継続します。また、区が運営する「しごと発見プラザかつしか」の認知度を上げ、求人・求職双方からの利用者を増やすことで、中小企業の人手不足解消の一助になりたいと考えています。

■「SDGs」「創業支援」「販路拡大」

区では、SDGs宣言という施策を、令和4年度から始めています。区内の活動を促進するため、SDGs達成に向け目標を決めて宣言した事業者等に「SDGs宣言証」を発行し、取組内容を区ホームページ等で発信しています。取り組みやすく、企業イメージの向上や雇用の確保にも繋がっていく事業だと思しますので、1社でも多くの企業に宣言いただけるように、区としても取り組んでいるところです。

創業支援は引き続き重点的に取り組んでいきたいと考えており、特に区と金融機関が連携して定期的に行っている創業塾は、定員がすぐに一杯になります。引き続き、金融機関のご協力をいただいて取り組んでいきます。

加えて、販路の拡大支援として、色々な形で区内事業者の発信に取り組んでいます。具体的には、「町工場見本市」の開催や、葛飾ブランド「葛飾町工場物語」を認定する事業を行っています。

「かつしかプレミアム付商品券」や、「葛飾物価高騰緊急対策支援金」のように、タイミングを的確に見計らって、今後も様々な事業者の方への支援に取り組んでいきたいと考えております。

(令和5年3月取材)

葛飾区の 有名人



【スポーツ】

- ウルフ・アロン(柔道選手)
- 加納遼大(ラグビー選手)
- 益子直美(元バレーボール選手)
- 三ツ保大樹(プロ野球選手)
- 渡部香生子(競泳選手)

【芸能】

- 川畑要(歌手)
- 木下優樹菜(タレント)
- 高木美保(俳優)
- 武井壮(タレント)
- 二宮和也(歌手)

【文化】

- 秋本治(漫画家)
- 勝間和代(作家)
- さかなクン(魚類学者)
- 高橋陽一(漫画家)
- 渡辺明(棋士)

第4章 江東区

1. 江東区の概要

(1) 江東区の歴史

江東区は江戸初期から埋立てを行い、木材・倉庫業、米・油問屋の町として栄えた深川地区（旧・東京市深川区）と、江戸近郊の農地として野菜を江戸市民に供給してきた城東地区（旧・東京市城東区）から成り立っている。明治時代になると、広い土地と水運を利用して、東京の工業地帯となった。「江東」の区名は、昭和22年に「隅田川の東に位置する」という地理的な意味から、辰巳区、東区、永代区などの候補の中から選ばれた。

世帯数		283,545
人口	男性	262,112
	女性	271,049
	総数	533,161
令和5年2月1日現在		

(2) 江東区の地理

東京都の東部、隅田川と荒川に挟まれた位置にあり、東京湾に面している。元々低地であったが、かつて南関東ガス田の開発に伴う地下水の汲み上げにより地盤沈下したことで、区の大部分がゼロメートル地帯、または海面より低い海拔マイナス地帯となっている。面積は43.01平方キロメートル（江東区ホームページより）あり、23区中6番目の広さである。

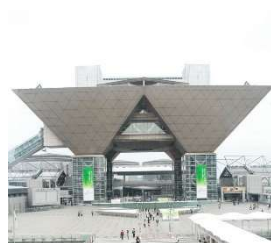


(3) 江東区の名所・見どころ

観光スポットとしては、深川不動尊や富岡八幡宮といった、歴史的な寺社が多い。臨海エリアには、ダイバーシティ東京などの複合商業施設も多く、海外観光客が多く訪問している。

主な観光名所	主な年中行事
深川不動尊	初不動(1月28日) 深川龍神例大祭(5月1日)等
富岡八幡宮	例祭(8月15日頃)
亀戸天神社	藤まつり(4月)、例大祭(8月)
猿江恩賜公園	チューリップフェスタ(4月)
東京ビッグサイト (東京国際展示場)	企業向けの展示会、各種文化展示(随時)
日本科学未来館	トークセッション、ワークショップなど(随時)
ダイバーシティ東京	販促イベントや他企業とのコラボイベント(随時)
豊洲市場	予約制見学等(随時)

また、日本最大規模の展示会場である東京ビッグサイトも有しており、平成30年には豊洲市場が開場し賑わいをみせている。東京2020オリンピック・パラリンピック会場では、江東区の湾岸エリアの10施設が利用された。



東京ビッグサイト
(東京国際展示場)



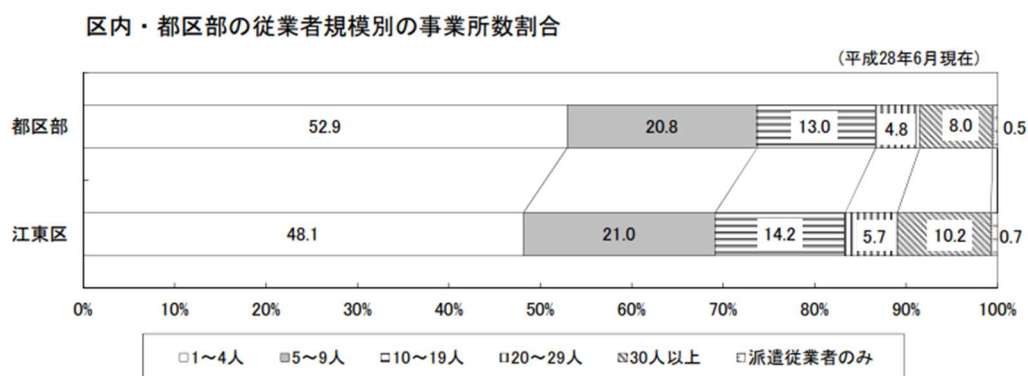
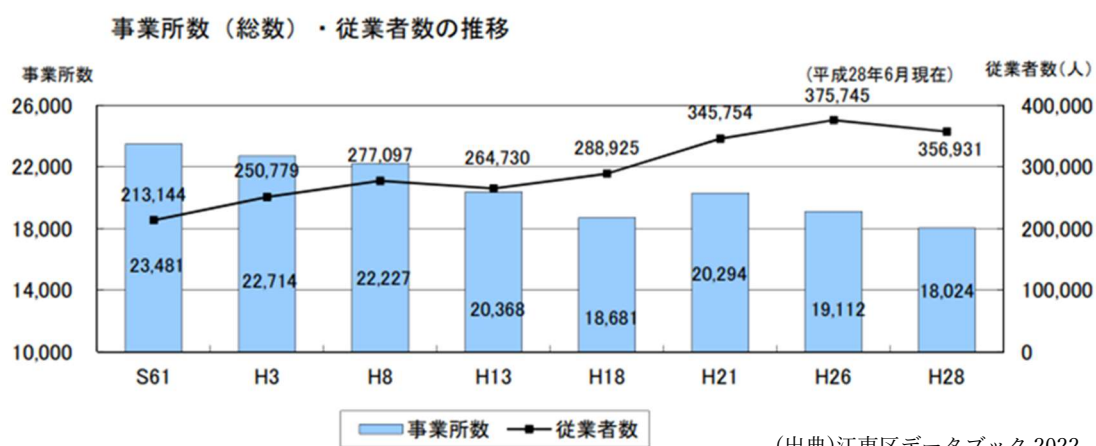
豊洲市場

2. 江東区の産業の特徴と状況

(1) 江東区の特徴と状況

江東区は繊維（ニット）やガラス（江戸切子を含む）、木材や印刷といった産業が集積しているが、最近では情報関連業の集積が目立っている。また、臨海副都心地区の開発が進んでいることもあり、新しい文化・情報の発信、京浜・京葉の両臨海地帯を結ぶ陸路の物流拠点、国際港としての海運物流の拠点になっている。

事業所数は昭和 61 年と比較して、20%以上減少している一方で、従業者数は 167%と増加している。従業員 4 人以下の小規模事業所が減少している一方で、従業員 20 人以上の事業所の割合が増え、従業員が増加したことが要因と思われる。



(2) 江東区の産業と課題

ア. 江東区の工業

①特徴

江東区の工業は明治時代以降、広大な土地と水運が充実していたことを背景に、繊維、木材、ガラス、印刷、製本、金属加工といった産業が発達し、東京の工業地域の一 corner を担っている。さらに江東区は、京浜・京葉の両臨海地帯を結ぶ陸路の物流拠点として、また、青海コンテナふ頭やフェリーふ頭(有明)、若洲建材ふ頭などの東京港は国際

港であり、海運物流の拠点としての位置付けも高い。

②課題

都内の他の代表的な工場集積地区と同様、事業所数は減少傾向にある。特に従業員 5 人以下の小規模事業所の減少が顕著である。これにより、かつて強く持っていた集積ネットワーク機能を喪失してしまう恐れが強い。また、江東区の主要工業である、繊維や木材といった産業は、価格の安い海外製品との競争が激しく、消費者のニーズに合った付加価値の提供を図ることが急務となっている。

イ. 江東区の商業

①特徴

人口の顕著な増加等により、商業の環境としては好条件である。大型商業施設の新規参入やコンビニエンスストアの店舗数が増加しているが、大型商業施設は臨海部や中南部に集中し、偏りが生じている。また江東区の商業の突出的な特徴として、サービス業の代表格である情報関連業の伸びが著しい。平成 11 年は 154 事業所だったのが、平成 21 年には 451 事業所と 10 年で約 3 倍に増加、令和 3 年では 656 事業所の水準となっている。（令和 3 年経済センサス活動調査（速報集計）より）

②課題

商業の代表格である商店街は他の地域と同様、店の後継者問題や商店会組織の高齢化、来街者の減少などが問題としてあげられる。江東区が実施した「江東区産業実態調査（2022 年 3 月版）」によると、商店会の経営者の年齢構成は 60 歳以上が 6 割を超えており、商店街の景況感として活気があると回答した割合は全体の約 2 割に留まっている。

ソフト面での祭り・イベントの実施や HP・SNS 等での宣伝、ハード面での防犯設備や Wi-Fi の設置など、様々な取り組みにより、商店街の活気を取り戻し、近年の消費動向の変化への対応が求められる。

3. 江東区の特徴的な取り組み

(1) 江東区ものづくり団地（江東ブランド）の認定

優れた技術でものづくりを行い、それを守りながら継承し、発展を続けている企業を「江東ブランド」として認定している。認定企業への支援として、①展示会や見本市など、製品や技術を PR できる場の提供、②認定企業紹介パンフレットの発行・配布、③認定企業情報を発信するための専用ウェブサイトへの掲載、④認定企業を軸とした交流会の開催、⑤江東ブランド認定ロゴマークの付与を行っている。

<https://kotobrand.jp/>



(2) 江東みつばちプロジェクト®（豊洲商友会協同組合）

「豊洲ブランド」を作ろうと、豊洲の明るいイメージや地産地消に合うものとして養蜂事業を開始。ビルの屋上で採れた蜂蜜の販売に加え、商店街の各店舗で製品開発を行い、豊洲名物を製造・販売した。同時に蜂の蜜を集めるための「花いっぱい運動」「清掃活動」を実施し、地域の美化も行った。また、いくつかの大学の花粉採取調査にも協力している。

商店街として新たに名産品を作ろうという気概あふれた取組であり、各店舗で蜂蜜を活用した商品開発を行うことで、商店街に一体感が生まれている点が評価され、第13回東京商店街グランプリ優秀賞を受賞した。

<http://koto-mitsubachi.org/>



4. 江東区の施策

(1) 江東区の基本計画

ア. 江東区基本構想（平成21年3月策定）

江東区基本構想は概ね今後20年を展望した江東区の姿を「みんなでつくる伝統、未来 水彩都市・江東」として将来像に定めたほか、その実現を図るための施策の大綱（①水と緑豊かな地球環境にやさしいまち、②未来を担うこどもを育むまち、③区民の力で築く元気に輝くまち、④ともに支えあい、健康に生き生きと暮らせるまち、⑤住みよさを実感できる世界に誇れるまち）という5つの大項目で構成されている。

<https://www.city.koto.lg.jp/010162/kuse/shisaku/koso/5472.html>



イ. 新しい江東区長期計画（令和2年度～11年度）

本長期計画では「地下鉄8号線の延伸」を重要課題とし、重点的な取り組みとして、「水彩・環境都市づくり」「未来を創るこどもを育むまちづくり」「地域の活力を生み出すまちづくり」「高齢者など誰もが支えあう社会づくり」「防災都市江東戦略」「オリンピック・パラリンピックレガシーの継承」「臨海部のまちづくり」の7つの重点プロジェクトを掲げ、施策を横断的に連携させながら着実に取り組む。

<https://www.city.koto.lg.jp/010162/kuse/shisaku/kekaku/kekakur0211/choukikeikaku0211.html>



(2) 江東区の産業支援

江東区の産業支援は以下の通りである。

<https://www.city.koto.lg.jp/sangyoshigoto/chusho/index.html>



ア. 相談対応

経営相談、税務相談、労務相談、創業支援相談、産学公連携相談窓口（東京商工会議所）、新型コロナウイルスに関する中小企業者等の相談窓口がある。

イ. 各種補助金

ICT 等導入支援事業、産学連携小規模共同研究補助金、知的財産権取得費補助、新製品・新技術広告宣伝費補助、中小企業団体活動助成、環境認証等取得費補助、展示会等出展費補助、研究開発補助金（旧：新製品・新技術開発補助金）、ホームページ作成費補助、都立産業技術研究センター利用料の一部補助、創業支援事務所等賃料補助金等がある。

ウ. 創業支援

「江東区創業支援等事業計画」に基づき、連携する団体と江東区内で創業を希望する方の創業の実現に向けた支援、江東区の認定特定創業支援等事業を受けて開業した企業の紹介等がある。

エ. 後継者・人材育成

インターンシップ事業、産業スクーリング事業等がある。

オ. 産業情報の提供

中小企業景況調査、中小企業支援施策ガイド、江東区中小企業情報誌「こうとうの産業」等がある。

カ. 講座・セミナー・イベント

補助金・助成金等事業説明会、創業支援セミナー、経営戦略支援セミナー、産業展、江東区地域クラウド交流会等がある。

キ. その他中小企業支援事業

先端設備等導入計画の認定、消費税価格転嫁相談窓口の設置、中小企業団体登録、産業会館・商工情報センター利用に伴う中小企業者登録、公衆浴場対策事業等がある。

5. 城東支部とのつながり

城東支部としての、江東区との主な取り組みとしては、以下を目的に「江東区中小企業診断士会」が活動している。

○江東区内の行政、金融機関、商工団体、商工事業者に対する相談対応の提供

○会員による経営支援サービス

江東区に聞く



江東区地域振興部経済課長 上原 新次

■アフターコロナの中小企業支援策

本区の新型コロナウイルス感染症対策資金は、令和2年度の制度開始以降、新型コロナウイルスの影響の長期化により制度の延長と拡充を実施し、貸付件数は約5,200件、貸付金額が447億9千4百万円（令和5年2月16日現在）となっています。

今後、元金返済の据え置き期間が満了する事業者の増加が見込まれることから、借換による返済期間の延長などに対応できるよう、令和5年度は新たに「コロナ融資限定借換資金融資制度」を創設いたします。

■「創業支援」への取り組み

コロナ禍での社会変容や国のスタートアップ支援策の拡充により、「特定創業支援等事業による支援を受けたことの証明書」の取得希望者が増加しています。

本区では、これまで経営相談の枠の中で実施してきた認定業務を、令和5年度は新たにセミナー方式でも実施し、国の補助金の締め切りに合わせた認定を希望する方への体制を強化します。

また、区内で創業した方、創業予定の方が区内で新たに事務所等を借り上げる際の、賃料の一部を補助する、「創業支援事務所等賃料補助事業」の補助対象件数を拡大する等、江東区で創業される方への支援の拡充を図ります。

（令和5年3月取材）

江東区の 有名人



【スポーツ】

- 王鵬幸之介(力士)
- 越中詩郎(プロレスラー)
- 須藤元気(格闘家・政治家)
- 堀米雄斗(スケートボード選手)
- 松坂大輔(野球選手)

【芸能】

- 片瀬那奈(女優)
- 田中圭(俳優)
- 立川談笑(落語家)
- 中村アン(モデル)
- 持田香織(歌手)

【文化】

- 飯島栄治(将棋棋士)
- 小倉弘子(アナウンサー)
- 木村勉(城東消防団消防団長)
- 宮部みゆき(作家)
- 山根 Yuriko 茂樹(イラストレーター)

第5章 墨田区

1. 墨田区の概要

(1) 墨田区の歴史

墨田区は近代産業の発祥の地であり、区内産業に従事する区民の割合が多く、区内産業と区民生活は密接に関わる「産業のまち」であった。昭和22年（1947年）3月15日に北部の向島区と南部の本所区が一つとなって墨田区が誕生した。墨田の名は、隅田川堤の通称「墨堤」の墨と、隅田川の田から名付けられた。

世帯数		162,428
人口	男性	138,084
	女性	142,051
	総数	280,135
令和5年2月1日現在		

(2) 墨田区の地理

墨田区は東京都の東部、江東デルタ地帯の一部で、隅田川、旧綾瀬川、荒川、旧中川などを区界とする水辺と緑に囲まれた町である。区の形は南北にやや長く、東西約5キロメートル、南北約6キロメートルで、面積は13.77平方キロメートルあり、23区中17番目の広さとなっている。



墨田区は、東京23区中17番目の広さ

(3) 墨田区の名所・見どころ

歴史や自然を含めて東京を象徴する観光資源に恵まれており、ものづくりのまちにちなんだイベントも開催されている。また、隣接する浅草からスカイツリー方面への移動による外国人観光客の訪問も多い。

主な観光名所	主な年中行事
隅田川	隅田川花火大会（7月）
東京スカイツリー 東京ソラマチほか	すみだストリートジャズフェスティバル（10月）
すみだ北斎美術館 ほか	「隅田川兩岸景色図巻（複製画）と北斎漫画」（開催中、令和5年11月終了）ほか各種企画展示
江戸東京博物館	休館（令和7年度までを予定）
牛嶋神社	牛嶋神社祭礼（9月）
錦糸公園	すみだまつり・こどもまつり（10月）
国技館	大相撲興行
区内の参加工場	スミファ（11月）

2. 墨田区の産業の特徴と状況

(1) 墨田区の特徴と状況

墨田区の産業は、製造業の占める割合が高く、東京23区の中でも屈指の「ものづくりのまち」といえる。さまざまな業種の中小企業が集積し、日常生活関連用品や技術の供給地となっている。さらに近年は、平成24年の東京スカイツリー開業など、大規模開発や交通網の発展により状況が大きく変化している。しかしながら、後継者問題などから中小企業を取

り巻く状況は厳しく、工場や小売業商店数が減少傾向にある。

(2) 墨田区の産業の課題

ア. 墨田区の工業の特徴

墨田区の工業は、日用消費財を供給する一大生産拠点として、ニット、皮革等の雑貨を中心に、関連の機械金属工業（日用消費財の金属部分を担うプレス、メッキ等）が集まって、全国有数の都市型工業集積を形成した。



23 区の工場数

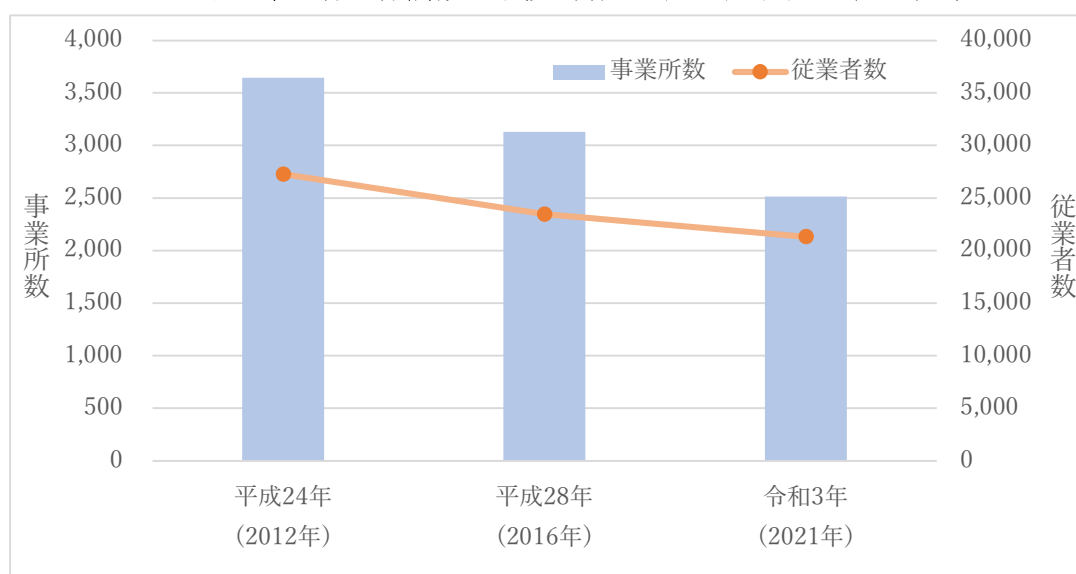
出典：墨田区ホームページ（データは「平成 28 年経済センサス活動調査」より）

墨田区における工場数の業種別構成比

出典：墨田区ホームページ（データは「平成 28 年経済センサス活動調査」より）

製造業の中国や東南アジア等海外へのシフト、工場周辺でのマンション建設の増加などによる操業環境の悪化、また後継者難の問題もあり、工場数は減少傾向にある。

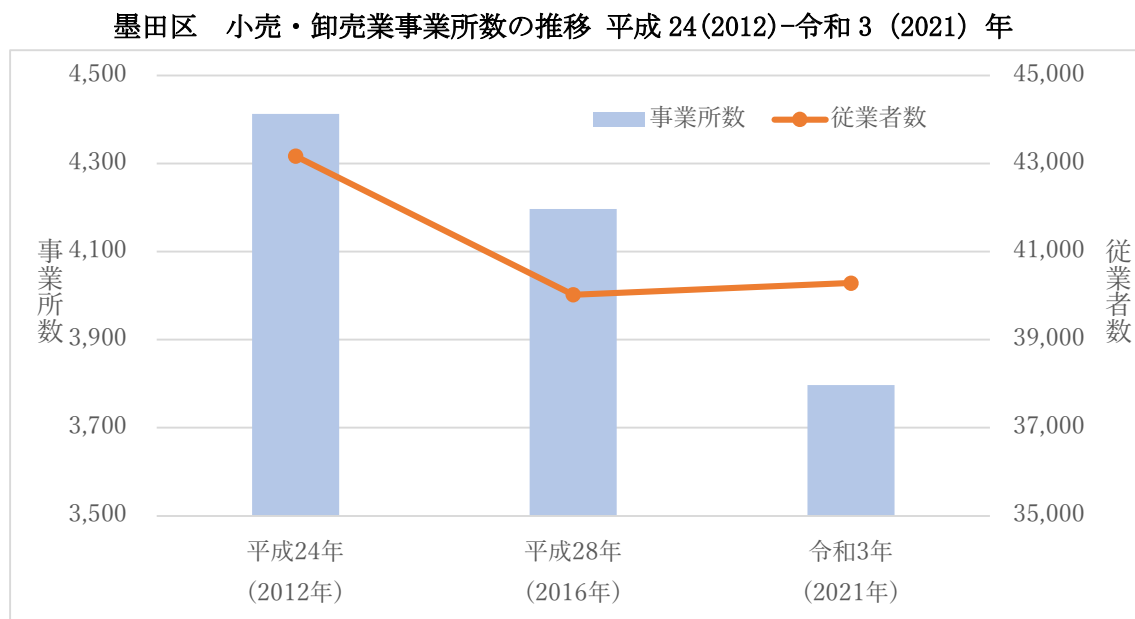
墨田区 製造業事業所数の推移 平成 24(2012)–令和 3 (2021) 年



出典：経済センサス活動調査より抽出 ※令和 3 年（2021 年）は速報集計を使用。

イ. 墨田区の商業の状況

墨田区は、近年の交通環境の発展や東京スカイツリー開業等による大型店の進出が加速しており、小売業商店は厳しい競争にさらされている。このような環境下で、商店街や個店は後継者難、顧客減少、空き店舗増加や施設の老朽化など数多くの課題を抱えており、小売業商店数は減少してきた。



出典：経済センサス活動調査より抽出 ※令和3年（2021年）は速報集計を使用。

3. 墨田区の特徴的な取り組み

(1) すみだモダン（すみだ地域ブランド戦略）の推進

東京スカイツリーの誘致を契機に、「ものづくりのまちすみだ」を区内外にPRするために平成21年度にすみだ地域ブランド戦略事業を開始。令和3年には対象を「商品」だけでなく事業者の「活動」にも広げ、またロゴマークもリニューアルした。すみだらしい付加価値の高い商品等を「すみだモダン」と認証する「すみだモダンブランド認証事業」や、区内製造事業者とクリエイターとのコラボレーションによる市場価値の高い新商品開発を行う「すみだモダン フラッグシップ商品開発」を推進している。令和4年にはすみだモダンの理念に共感した個人・団体・企業が参加できる「すみだモダンコミュニティ」をスタートした。

平成28年には「産業観光まちづくり大賞」で経済産業大臣賞、平成29年には「ふるさとづくり大賞」で総務大臣賞を受賞するなど、高い評価を受けている。



https://www.city.sumida.lg.jp/sangyo_jigyosya/sangyo/pr_brand_hyousyo/sumida-brand/brand.html



(2) スミファ〜すみだファクトリーめぐり

スミファは墨田区の町工場を巡って、職人と話したり技術に触れながら、ものが作られていく“現場”を肌で感じることでできる参加型イベントである。令和4年度はすみだの誇る町工場36社が参加し、3年ぶりとなるリアル開催で行われた。



<https://sumifa.jp/>

(3) 活力のある中小企業の事例

株式会社浜野製作所：ものづくりのインキュベーション施設「Garage Sumida」を運営（下記URLはGarage Sumida）



<https://garage-sumida.jp/>

株式会社アストロスケールホールディングス：宇宙ゴミの除去など宇宙システムを開発



<https://astroscale.com/ja/>

4. 墨田区の施策

(1) 墨田区の基本計画

- ・墨田区基本計画（令和4年改定）

平成17年策定の「墨田区基本構想」を実現するための「墨田区基本計画」を、環境変化に合わせて改定した。当計画では、これまでの施策の達成状況や社会経済情勢の変化およびSDGs（持続可能な開発目標）の理念などを踏まえ、持続可能なまちとして墨田区の発展を見据えている。



https://www.city.sumida.lg.jp/kuseijoho/sumida_kihon/kihonkeikaku/kihonkeikaku_r4/r4-keikaku.html

(2) 墨田区の産業支援

ア. 産業と観光の将来構想～あえる！～（令和4年）

これまでの産業振興および東京スカイツリー開業を契機とした観光振興を一体化した取り組みである。産業と観光の切り口でさまざまな社会課題を解決し、持続可能なまちを実現するための構想を新たに策定した。長期的なビジョンとして「本気の夢中が出会い、世界からも注目されるまち。」を掲げている。

https://www.city.sumida.lg.jp/kuseijoho/sumida_kihon/ku_kakusyukeikaku/sangyou_AERU.html



イ. 3M（スリーエム）運動

墨田区の産業 PR とイメージアップ、地域活性化を図る事業である。「小さな博物館」(Museum)、「マイスター」(Meister)、製販一体の「工房ショップ」(Manufacturing shop)。の3つの頭文字をとって「3M（スリーエム）運動」と呼ぶ。産業分野を伝統工芸、ガラス製品、革製品、食用品・日用品・木工品などに分類し、それぞれの認定事業者を紹介することで、区の優れた産業をアピールしている。

https://www.city.sumida.lg.jp/sangyo_jigyosya/sangyo/pr_brand_hyousyo/sumida3m/index.html



ウ. フロンティアすみだ塾

中小企業の後継者または若手経営者を対象に、次代を担う人材の育成を目指す私塾形式のビジネススクールを行っている。経営の知識や心構えの教授だけでなく、本音討論や区内企業の現場見学も通じ、経営課題を自ら考え克服する力を鍛錬・養成している。運営は、区、関係機関、区内産業人で構成する「すみだ次世代経営研究協議会」が実施する。

<https://frontier-sumida.com/>



エ. すみだビジネスサポートセンター（すみサポ）

区役所1階に無料の経営相談窓口を設置している。創業相談や販路拡大、ものづくりの困りごとまで総合的なアドバイスを受けられる。また測定・試験機器や3Dプリンタも設置されていて、有償利用可能となっている。

https://www.city.sumida.lg.jp/sangyo_jigyosya/sangyo/soudan/sbsc/2017sbsc-open.html



オ. 各種補助金、助成金

下記のように、ものづくりや商店街支援の補助金を中心に、各種補助金、助成金が用意さ

れている（下記は令和4年度の例）。

- ・墨田区生産性向上等支援補助金
- ・墨田区ものづくり企業地域共生推進助成金
- ・墨田区人材確保・定着支援補助金
- ・依頼試験等利用補助金
- ・区内生産品等販路拡張事業補助金
- ・ファッション産業人材育成支援事業
- ・ものづくりプロモーション推進補助金
- ・アウトオブキッザニア in すみだ
- ・墨田区商店街連合会の事業
- ・商店街チャレンジ戦略支援事業
- ・商店魅力アップ支援事業
- ・ワンモール・ワントライ作戦推進事業
- ・観光分野における他団体の補助事業等のご案内

https://www.city.sumida.lg.jp/sangyo_jigyosya/sangyo/hojokin_joseikin/index.html



5. 城東支部とのつながり

城東支部としての墨田区地域との主な取り組みは、東向島駅前商店街振興組合への夏祭り・冬祭りの年2回の支援や活性化支援がある。また、たもんじ交流農園や寺島・玉ノ井地域のブランディング支援を通じ特定非営利活動法人寺島・玉ノ井まちづくり協議会との連携支援等を行っている。

令和4年には、当協議会と一般社団法人てんてんが主催し、城東支部地域支援部が協力した第1回「寺島なす★祭り！」が開催された。初開催となるイベントだったが、城東支部では事前準備から当日の現地参加まで取り組み、地域と一体となって祭りに賑わいを生み出した。



墨田区に聞く

墨田区 産業観光部 産業振興課 課長 瀬戸正徳



■アフターコロナの中小企業支援施策

コロナ禍における商業面の対策として、これまでは飲食店のデリバリー支援事業や、個店が感染対策用品を準備するための新生活様式対応支援事業を行ってきました。他にも墨田区商店街連合会と連携し、キャッシュレス決済促進・ポイント還元事業を令和2年10月より4度にわたり実行しています。第4弾は予算が早期終了するなど、大きな効果を上げており、令和5年度も当事業の第5弾を実施します。

また、当事業の後に区内対象店舗を周遊できる「すみだまるごとバルウォーク」を実施する予定です。飲食店だけでなく「もの・コト」を含めた周遊イベントを行うことで、幅広く消費喚起をします。また同時に、前述のポイント還元事業と連続して実施することで、消費者に還元されたポイントの区内消費につなげます。

■SDGs の取り組み

墨田区は、内閣府から「SDGs 未来都市」「自治体 SDGs モデル事業」の両方に選定されており、先進的な取り組みを評価されています。

産業分野では大きく3つの施策があります。1つ目はSDGs宣言制度で、SDGsへの取り組みを宣言する事業者等を区が応援する制度です。2つ目はプロトタイプ実証実験支援事業です。地域福祉の充実や防犯対策の強化などの地域課題に対し、事業者がまだ世に出していないようなサービスや製品などを用いて実証実験をし、地域課題の解決にあたる、というものです。3つ目は令和5年10月にヒューリック錦糸町コラボツリー4Fにオープン予定の産業共創施設での事業です。この施設では、スタートアップを中心とした区内企業の支援と、区内外への情報発信をし、また事業者同士のコミュニケーションも促進していく計画です。当施設を「ものづくり」のまちとしての新たな産業集積とし、事業者の協業、共創や地域課題の解決を支援していきます。

(令和5年3月取材)

墨田区の 有名人



【スポーツ】

- 王貞治(元プロ野球選手)
- 大場政夫(元プロボクサー)
- 高橋尚成(元プロ野球選手)
- 松沼博久(元プロ野球選手)
- 松沼雅之(元プロ野球選手)

【芸能】

- いかりや長介(俳優、芸人)
- 井川遥(女優)
- 池内淳子(女優)
- 大橋巨泉(タレント、元参議院議員)
- 木の実ナナ(女優、歌手)

【文化】

- 坂崎幸之助(アーティスト)
- 六代目三遊亭円楽(落語家)
- 林望(小説家・日本文学者)
- 福井晴敏(小説家)
- 皆川亮二(漫画家)

おわりに

本小冊子は、東京都中小企業診断士協会城東支部への理解を深めることを目的に、管轄5区の地域情報を中小企業診断士の視点からまとめたものです。

活動拠点でありながら知らなかった地域のことや、問題に至る背景、解決すべき課題などについて改めてご認識いただけるものと思います。

編集後記・第5版執筆者

足立区 熊谷 友貴

今回の執筆にあたっては周辺の散策をして、改めて地域の魅力と特徴を肌で感じることができました。百聞は一見にしかず！



江戸川区 野村 英樹（第5版執筆リーダー）

今回、自分が住んでいる江戸川区を担当しました。江戸川区の事を深く知ること、力になりたい思いが強くなりました。



葛飾区 佐藤 宗一

葛飾区だけではなく、城東5区全体を、幅広く・深く知ることが出来ました。今なら、クイズ王にも勝てる気がします！！



江東区 大島 隆裕

普段何気なく見ているものに様々な人の想いの存在を知り、改めて地域の魅力を探したくなりました！有難うございました。



墨田区 安田 和博

改めて区の特徴や施策を調べ最も興味深かったのが施策「産業と観光の将来構想～あえる！～」。墨田区、アツいですよ！



執筆者(第1～4版)：順不同

足立区 佐野 雅啓、相川 佳寛、渡部 大志、嶋内 英朗、重谷 亮

江戸川区 河野 悟、原 慎之介、佐竹 聡、沼部 昭彦、上田幸正

葛飾区 屋代 勝幸、大口 憲一、森永 逸二郎、渡辺 英史、清田健一

江東区 大口 憲一、高久 裕司、佐々木 静、米納 嘉継、村田祐己

墨田区 高仲 秀寿、池田 智史、海野 大樹、宮田 昌尚、根津信之

編集者 相川 佳寛、屋代 勝幸、佐竹 聡、渡辺 英史、根津信之

発行元：東京都中小企業診断士協会 城東支部 地域支援部

城東支部ホームページ：<https://joto-smeca.com/>

印刷所：株式会社文優社

